

## Never say can't

校長 桐野 和之

皆さんを含め、最近の中学生の言葉を聞いていて、たまに気になることがあります。それはいろいろな場面でいとも簡単に「できません」「無理です」という言葉を使っていることです。あるいは心の中でイメージしているところですが、でも、よく考えてみてください。まだ実際にやってもいないのに、あるいは過去に試したこともないのに、なぜ、「私にはできません」「私には無理です」と言えるのでしょうか。さらに気になることは、その「できません」「無理です」という言葉を「やりたくない」という本当の気持ちの言い訳として使っているように思えることです。なぜ、「やりたくありません」と堂々と言わないのだろうか。これが最近、私が皆さんを含めた中学生の気になる言動です。

ここでひとりの人物を紹介します。その人の名前は西沢ヨシノリといいます。彼は現在、50歳を過ぎていると思いますが、プロボクシングの選手でした。高校を卒業後、ボクシングジムに入り、十九歳で華々しくデビューし、その年の新人王になりました。将来を期待され、二十代のときには、何度も日本チャンピオンや東洋太平洋チャンピオンに挑戦しますが、度重なるケガなどで一度も勝つことができませんでした。普通の人ならば、チャンピオンを目指すどころか、ボクシングを続けることさえ諦めるでしょう。しかし、西沢さんは諦めませんでした。負ける度にさらに厳しい練習を自分に課し、チャンピオンを目指して戦い続けました。そして、三十一歳の時に、四度目の挑戦で、初めて日本ミドル級チャンピオンになりました。その後も、敗れても、敗れても挑戦し続け、その度にチャンピオンに返り咲き、四十歳までチャンピオンベルトを獲得し続けました。これは驚異的なことでした。日本のルールでは、ボクシングは大変激しく危険なスポーツであることから、三十七歳になると引退することになっていました。しかし、西沢さんの情熱と活躍がルールを変えさせました。チャンピオンであるか、チャンピオン戦に出場する事が認められている選手は三十七歳を超えても現役を続けることができるかと改められたのでした。しかし、四十歳になったばかりの年の防衛戦に敗れて、とうとう持ち続けてきたチャンピオンベルトを失い、引退することになりました。でも、ここで諦めなかったのが西沢さんです。オーストラリアでは年齢制限がない事を知ると、オーストラリアのプロ認定試験を受けて合格し、その後も現役を続けたのです。そして、その後も東洋太平洋チャンピオン戦、そして世界タイトル戦にまで挑戦し、戦ったのです。現役である限り、チャンピオンを目指すという生き方にこだわり続けたのです。この西沢さんの座右の銘として、自分に言い聞かせていた言葉がありました。それが「Never say can't」です。直訳すれば「けして『できない』とはいわない」となります。西沢さんは、「できるかできないかは自分で決めることではない。人間はやってみなければわからない。だから、私は元気である限り、大好きなボクシングをやり続け、続ける限りはチャンピオンをねらい続ける」と言っていました。皆さんに聞きます。やる前から「私にはできません」「私には無理です」と言うことは自分の手で夢や希望を踏みつぶしていることになります。自分で自分を見限る事はしていませんか。あなたの夢や希望はあなた自身のものです。そして、それを実現させるのもあなた自身です。そのために自分を信じて、行動してください。



# 臨海学校に行って

第一学年主任 岩崎 陽



夏休み中の7月24日(月)から27日(木)の3泊4日で、1年生は臨海学校のために下田少年自然の家に行ってきました。天気は基本的に曇りの日が多くて少し肌寒くはありましたが、雨は宿舎にいたときに降っただけだったので、ほぼ予定通りに日程をこなすことができました。



今回の参加者は、男子52名、女子57名の計109名でした。数週間の水泳練習の成果もあったのか、三日目の大遠泳、中遠泳、小遠泳では、参加した生徒全員が見事に完泳し、達成感を味わうことができました。

今回臨海学校に参加した生徒は、夏休みに入ってから水泳練習、事前指導、臨海学校本番と立て続けの日程で、とても忙しい日々だったと思います。しかし、臨海学校で遠泳を泳ぎ切った経験は、彼らにとって一生の思い出になったことでしょう。



# 生徒海外派遣を終えて

3年A組 Kさん

私は、今回海外派遣でオーストラリアに行って気付いたことが3つあります。

一つ目は、日本で勉強している英語と、オーストラリアで話されている英語が少し違うところです。例えば、オーストラリアでは、todayは「トゥダイ」と発音します。



二つ目は学校の雰囲気が全然違うところです。オーストラリアの学校は、遅刻をしても怒られません。食べ物の残りや、リンゴのへたを床に捨ててしまったり、授業中にジュースやお菓子を食べたりしている生徒もいました。私は「オーストラリアの学校は自由なんだ」と思いました。



三つ目は、オーストラリア空の色が宇宙が透けて見えそうなくらい、青かったところです。オーストラリアでは毎日雲一つない快晴です。空がとても広くて、日本では見たことがないくらいに、きれいでした。

今回の海外派遣を通して、自分の英語力はまだまだ不十分であることを実感しました。これまで以上に英語の勉強を頑張っていきたいと強く思います。

私がお世話になったホストファミリーが来年に4月に日本に来る予定です。その時にはより一層英語でコミュニケーションがとれたら良いと思います。

この機会に恵まれた事と、支えてくださった皆さまに感謝申し上げます。ありがとうございました。

2年C組 Aさん

僕は、海外派遣を通して自分の気持ちを伝える大切さを学びました。初日は、緊張から相手に自分の考えやしたいことを満足に伝えることができませんでした。僕は、とても不甲斐なく思いました。そのことから、自分の気持ちは失敗を恐れず相手に言ってみないと分かってくれないことが分かりました。全てにおいて、自分から言ったりやったりする積極性は、使用言語の違う外国の方と意思疎通をする上でどのようなことよりも大切であるのではないかと感じました。

また、普段から心のドアを開くことも重要であると思いました。外国の人はとてもフレンドリーで、閉鎖的な日本人とは正反対でした。そのため、外国の人と友好的な関係を築くためには明るく笑顔で接することが必要であると思いました。



このように、僕は海外派遣で他人との接し方などの人間関係について学ぶことができました。

この先、外国に行って外国の人とコミュニケーションをとる場面もあると思います。そのようなときにも失敗を恐れることなく、“I can do it!”の気持ちで相手と接していきたいです。

この海外派遣は、僕を大きく成長させてくれました。この事業に関わってくくださった全ての方々に感謝したいです。本当にありがとうございました。

## 「少年老い易く、学成り難し」

二学期始業式 校長講話

「少年老い易く、学成り難し」、このことわざを知っていますか。私はいいことわざだと思えます。皆さんの中にも聞いたことがある人はいるのではないのでしょうか。簡潔で分かりやすく、皆さんのような中学生にはうってつけの言葉だと思います。

この言葉の意味は「月日は早いもので、若いと思ってもすぐに年をとってしまいます。それに比べて学問の道は、なかなか思うように身につかない。ひとときも無駄にすることなく、一日一日を大切にしよう」という意味です。この意味を聞いて皆さんに通じるものがあるのでしょうか。「少年老い易く」の部分はどうでしょうか。月日が経つのは早いと思うときがありませんか。

中学生には三年間という時間がありますが、一年生は入学して6ヶ月が過ぎようとしています。二年生は一年5ヶ月が過ぎ、中学校生活も折り返し地点を迎えています。三年生はあと6ヶ月で卒業です。このように数えてみると中学校生活は瞬く間に過ぎていきます。皆さんたちの先輩方も「あっという間の三年間でした」という言葉を残して卒業していきました。皆さんの中にも同じように感じている人も多いかと思えます。毎日の生活が充実している人の方が、時間が経つのを早く感じるようです。皆さんの今の中学校生活を振り返ってみましょう。一日が過ぎるのが、早く感じますか。あなたの学校生活は充実していますか。「少年老い易く」とあるように、瞬く間に時は過ぎていきます。一つひとつのことを大切にしていきましょう。

次に「学成り難し」の部分を考えていきましょう。「学び」の面で皆さんは自分の「学び」をどのように感じているのでしょうか。「学成り難し」ですか、それとも「学なり易し」ですか。

中学校生活で学習が大切なのはいうまでもありません。その中でも授業を通じて学ぶことはたくさんあります。同じ教室で同じ授業を受けているクラスの友達でも、その学び方はそれぞれです。授業の内容をすべて授業中に身につけることが理想です。完璧に身につけることは難しいかもしれませんが、学ぶ姿勢や学び方によって、理想に近づけることは可能だと思います。皆さんは理想通りに学べていますか。理想の学び方をするためには、ことわざの示すとおりに「ひとときも無駄にすることなく、学問に励むこと」です。自分自身の気持ちの持ち方ひとつで学ぶ姿勢は随分と変わってきます。励むのは学問だけではありません。自分自身の目の前にある課題、例えば、行事の準備や部活動の練習、委員会や係の仕事など探せばいくらでも「励むべきこと」はみつかります。皆さんには常に励むことを常に探し求める意欲を身につけてほしいです。

三年間の中学校生活は瞬く間に過ぎてしまいます。自分の学びに悔いがない学び方をしてほしいのです。前にも話をしましたが、自ら質問するという学び方を、今学期はもっと、もっと実行して行ってください。質問するということは、自分から聞いた、尋ねたという行動が、必ず記憶として残ります。この記憶は人に言われて実行したことではないので、自らの体に染み込むものです。真の学びになるはずです。今学期もしっかりと学びましょう。

## 部活動の報告

男子柔道部…第36回東京都中学校体重別柔道選手権大会

第66回東京都中学校対抗柔道大会

平成29年7月21日(金)、22日(土)

結果：男子団体戦の部 7位入賞、

男子個人戦の部 90kg級 3年 Kさん



第5位入賞

女子柔道部…第28回東京都中学校体重別女子柔道選手権大会

第21回東京都中学校対抗女子柔道大会

平成29年7月21日(金)、22日(土)

結果：女子団体戦の部 5位入賞、

女子個人戦の部 52kg級 3年 Kさん



第5位入賞

70kg級 3年 Iさん

第4位入賞

陸上競技部…第63回全日本中学校通信陸上競技大会東京大会

平成29年7月23日(日)、24日(月)

結果：共通走高跳 3年 Nさん 第6位 1m73

1年走幅跳 1年 Aさん 第8位 5m00



卓球部…第28回東京カデット大会卓球大会(Bクラス)

平成29年8月17日(木)

結果：2年 Kさん(1回戦敗退)、Mさん(1回戦敗退)

1年 Sさん(2回戦進出)、Nさん(1回戦敗退)



パソコン部…8月2日(水)猿島、8月23日(水)三浦半島へ自然散策と写真撮影に行きました。部員も増え、全員が参加できるように夏の活動を2回にしました。2回とも参加する生徒もいました。



※この他にも、多くの大会結果が届いています。今回は紙面の都合で、7月と8月中旬頃までの結果のみ、お伝えしました。次号で8月下旬以降の結果を報告します。お楽しみに!